

# 仮面ライダービルド Another・Experiment

ラビット晴晞

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

仮面ライダービルドであり、てえんさい物理学者の桐生戦兎はエボルトを打倒し、新  
世界……New Worldを作るに至つた。しかし、俺と筋肉バカである万丈龍我の  
存在の記憶はみんなから消えてしまつていた。いつたいどうなつてしまふのか……  
さあ、新たな実験を始めようか

取り敢えず書いてみた作品です。よし、始めようか。

プロローグ

目

次



# プロローグ

「天才物理学者桐生戦兎のいる東都の町でスマッシュという謎の怪人が市民を脅かしていた。そこに現れたのは、我らがヒーロー仮面ライダー……」

「自分で天才とかヒーローとか痛いんだよ。ただの記憶喪失のおっさんだろ」

「うるさいよ。そうゆうこいつは刑務所を脱走した殺人犯の万丈龍我」

「俺は殺しも脱走もしてねえ!!」

「そうやつてワンワン泣きてすがるもんだから、心優しい俺は、なんと東都政府を敵に回してコイツと逃げてしまふのでありました。さあ、どうなる第2話!!」

「泣いてねえし!!」

「ツツコミ遅いんだよ」

新世界が作られてから、みんなから俺とエボルトの遺伝子を持つ方の万丈の記憶が消えてしまった。それが新世界ができることによる記憶の中の俺達の存在の完全なる消滅なのか、單なる記憶の上書きなのかはこれから研究するとして……

しかし、学者とは自分の研究成果を論文として残すもの。俺の作ったライダーシステム。その実用性を論文にしようとした。紙がないので当時の記憶を振り返つて声に残すこととした。

「そういや、結局お前って殺人犯なんだつけ」

「んなわけねえだろ。俺が殺したってなつてる葛城巧がお前なんだから……」

「いや、佐藤太郎を殺したエボルトの遺伝子を持つてるから……」

「言い掛かりにもほどがあんだろ」

取り敢えずこれからどうするか、来た道引き返して n a s c i t a で作戦会議しようと戻つてると、急に走る人の流れがあつた。

なんでこんな人だからがあるんだ。しかも、なにから逃げてるみたいだし……まさか……

「おい、万丈。行くぞ、俺達の出番だ」

「出番、なんだよそれ」

「仮面ライダーの出番つてことだよ」

マシンビルダーを停めて、スマホに戻し人の波に逆らい出てくる。その中心に居たのは……スマッシュと、襲われているのは

「黒い髪の俺と、香澄じやねえか」

「お、普通のクローズドラゴンに戻つてんぞ!! どうなつてんだよ…」

「エボルトが消滅したから、その影響を受けていたアイテムが元に戻るのか」

ドラゴンボトルを万丈に投げながら、ビルドライバーを装着する。

「取り敢えずクローズに変身しなさいよ」

「ま、いつか。よっしょ行くぞ」

「さあ、実験を始めようか」

俺はラビットとタンクを、万丈はドラゴンボトルを装填したクローズドラゴンをビルドライバーに装填する。

『ラビット！ タンク！ ベストマッチ！』

『クローズドラゴン!!』

レバーを回し、ボトルの成分が強化アーマーを形成する。装着する直前に万丈が言った。

「足引つ張んなよ」

「そつくりそのままお返しするよ」

「変身!!」

『鋼のムーンサルト!! ラビットタンク！ イエーイ!!』

『Wake up burning! Get CROSS-Z DRAGON! Y  
e a h!』

ビルドとクローズへの変身が完了する。っていうか、お互いに初期フォームになるの久しぶりだな。よし、行きますか。  
「勝利の法則は決まつた!!」  
「今の俺は、負ける気がしねえ!!」